

## 教材活用の視点

本データベースには、各障害領域で実践された420以上の教材・指導法が紹介されています。ここには、それぞれの障害特性に配慮した工夫が詰まっています。また、それらは、実践された障害領域以外でも活用が考えられる、と考えています。とはいえ、教材を効果的に活用するためには、どうしたらよいでしょう。紹介されている教材・指導法の工夫の視点から、考えてみたいと思います。

### 1、データベースで紹介された教材たち

ここで紹介されているものは、ある子どもの指導例です。つまり、障害領域の中で蓄積されたさまざまなノウハウに基づいて行われた指導例でもあります。その中でも、子どもの特性が焦点化されているため、もしかしたら、書いてある通りに指導しても、うまくいかないと感じることもあるかもしれません。

教材は、もともと、ある学習の目標を達成するための道具としてあるものです。ここで紹介されている教材は、コラム3～8の「〇〇にくさの実態」「〇〇にくさの背景」といった、学習をする上で子どもたちの持っているいろいろな困難さに対して、「だから、こんな工夫」という考えに基づいています。では、改めて教材が作成された視点をおさらいしてみましょう。

### 2、教材の工夫の視点

教材紹介のページに書かれていることは、その教材の工夫の視点でもあります。読者である先生方が担当されている授業作りのポイントにしたい所に注目してみましょう。

#### (1) 子どもの特性に注目

紹介ページでは、指導した子どもの特性について、「こんな実態にある子ども」「こんな苦手のある子ども」に注目して工夫が考えられました。先生の担当するお子さんは、どんな特性がありますか？ 指導上、どんな点を配慮したいですか？

#### (2) 学習のねらいに注目

教科や領域の指導の中で設定した「ねらい」に注目して工夫が考えられました。わかりやすさ、操作のしやすさ、興味のひきやすさなど、どんなねらいをどのように達成させたいか、学習のねらいによっても教材は変わります。

#### (3) 教材の特徴に注目

教材そのものの作り方や使い方の工夫が考えられています。そして、1つの教材の提示方法を変えたり、支援を段階的に減らしたり、難易度を変えていくなど、教材使用の段階性（ステップ化のヒント）が書かれています。1つの教材を繰り返し、丁寧に使い込んでいくこともあるでしょう。あるいは、いくつかの教材を組み合わせることが効果的なこともあります。

### 3、明日の授業がもっと楽しく

その教材を使ったら、子どもはどんな反応をするのかな、どんな活動をひきだせるのかな、具体的な授業場面を想像できましたか？

一番大切なことは、授業のPDCAに沿って実践を通して指導を評価、修正していくことだと考えます。初めは、データベースで紹介された教材をそのまま使ってみるのもよいと思います。教材の工夫の視点をおさえて、実施した授業や子どもの実態に合わせて評価してみましょう。学習のねらいがわかり、子どももやる気になった、けれど操作がうまくいかなくて学習が止まってしまった、のであれば、操作がしやすくなるような工夫を考えるとよいでしょう。また、このねらいには、この教材がよいと思っても、子どもが関心を向けないこともあります。その時には、その子どもの関心が向きそうな題材や、提示の仕方などをアレンジして使ってみることも考えられます。

1時間の授業を行い、担当する子どもの学習状況を見ながら、その子に合わせて修正していくことで、教材や指導方法が洗練され、授業も改善していくことができると考えます。授業がもっと楽しくなりますよ。

(田丸 秋穂)

